

令和2年度教育事業 教員のための自然の家 プログラム体験会

1. ねらい

- ・ 集団宿泊活動と各教科の学習を関連付けた教科横断的な視点を知る。
- ・ 自然の家の利用経験があまりない先生方が利用方法を知る。
- ・ 新学習指導要領に基づき、集団宿泊活動を各教科等の年間指導計画に効果的に位置付けるための方法を知る。
- ・ プログラム体験を通して適切かつ効果的に指導する力を培う。

2. 実施日

4月5日（日） 9:20～16:00

3. 対象者

国立曽爾青少年自然の家を利用する小学校・中学校教員

4. 参加者 / 募集定員

8名 / 30名程度

5. プログラム（要約）

集団宿泊活動で「教科等に関連付けたプログラム」を行う学校を増やすとともに、自然の家の利用経験があまりない先生方が、学校利用で来所する際、自信を持って指導に当たれるようにした。また、自然の家職員の指導により事前にプログラム体験することで、より学校のねらいに沿った効果的な活動が行えるようにした。

スケジュール

	時間	活動内容	
共通プログラム	9:00	受付	
	9:20	開会式、日程説明	
	9:30	プログラムの組み方、考え方 活動プログラムの各教科等の年間指導計画への効果的な位置付けについて	
	10:00	野外炊事ビーフカレー作り（薪割り、薪組み、火おこし、リスクマネジメント等）	
	13:00	施設（宿泊棟・研修室・大浴場等）見学	
選択プログラム	13:30 (前半)	晴天	亀山ハイキング
		雨天	そにっとビンゴ
	休憩		
	14:45 (後半)	晴天	フォトテレーリング フィールドアスレチック
		雨天	クラフト（木のコースター、焼き板）
16:00	アンケート記入後解散		



開会式後、学校の目的に合わせた活動プログラムの組み方や考え方、活動プログラムの各教科等の年間指導計画への効果的な位置付けについて、連携校との具体的な取組なども含めて説明した。

「野外炊事」では、実際にビーフカレー作りを体験した。グループに職員が入って先生方にアドバイスをしたり、質問に答えたりしながら行うことで、参加者は子どもたちの前でどのように指導をするとより効果的であるか、常に意識しながら行うことができた。



「亀山ハイキング」では、近隣の地理に触れながら滑りやすいところを歩くときの注意点など、安全に実施するための活動方法を伝えた。

参加者からは、「実際に登ってみて、プログラムに取り入れたい。」という声も聞かれた。

「フォトテレーリング」では、フィールド内の活動場所に触れながらプログラムを実施する上で大切にしたいことを伝えた。また、参加者からの要望に応え、「フィールドアスレチック」も体験した。実際に体験することで、子どもたちが実施するときにはどうすればよいか参加者が相談しながら取り組んでいた。

6. まとめ

新型コロナウイルスの影響により少人数での開催となったが、参加者からは「教職経験者が職員の中におり、ニーズに合ったプログラムを提案していただいた」「自然体験活動を、教科等に関連付けることが可能であると知ることができた」「めあてや目的を意識したプログラム作りの大切さに気付くことができた」等の多くの肯定的な意見が寄せられた。

今後は、学校現場のニーズをさらに取り入れながら、より充実した事業としていきたい。

（企画指導専門職 森本 貴仁）